

contents

1998年度スタディ研修会に向けて(東原義訓)	1
スタディインストラクター研修会・中央研修会のお知らせ	2
スタディ研修会のポイント(近藤憲司)	3

スタディノートを使った授業実践(堀 博文)	5
OCNスクールパッケージ補遣(粉川 一郎)	7
学校のホームページで・・・(毛利 靖)	8
ご質問にお答えします	8
ECO Newsからのお願い	8

1998年度スタディ研修会に向けて

信州大学教育学部 東原義訓

また、ECO News関係の皆さんの力を発揮していただきたい時期がやってきました。このままほっておくと、教育界におけるコンピュータ利用や情報教育の基盤となるコンピュータ等の導入および校内研修が大混乱を起こしてしまいそうだからです。

たとえば、中学校のコンピュータの更新時期にあたって、明確な指針がないままの導入や、児童・生徒に有効利用が不可能な形態でのインターネットへの接続といった事例が、全国から聞こえて来ます。また、コンピュータの普及に伴って先生方が個人でコンピュータを所有することが多くなってきたことから、逆に研修の必要性が認められず、結果として稼働率が低下しつつある学校もあるようです。

数年前のコンピュータの導入ラッシュのとき活躍され、ノウハウをお持ちの先生が、所属校の関係で、現在のコンピュータ導入に直接関与できず、地域として多大な損失になっているようなケースもあります。かつては教育委員会のもとに設けられたコンピュータ導入検討委員会にあたるものがないまま、単に新機種に更新されているケースも見受けられます。

以前に比べ、システム構成の多様化、機能の高度化、利用範囲の拡大、さらに次期学習指導要領に向けての情報教育に関する新しい動きなど、新システム導入とその研修には、これまで以上の努力が必要となっています。そこで、

ECO Newsでは、名称こそ例年と同じですが、このような状況に対応できる研修会を企画しました。

今年度のECO News主催の研修会は、すべてリーダー研修会です。中央研修会は学校でのリーダーを、インストラクター研修会は地域のリーダーを養成することを目的としています。

インストラクター研修会は、これまである程度リーダー的な活動をなさってこられた方を対象としていますが、中央研修会は「まったくの素人」の先生に、校内のリーダーとして活躍いただけるように、CAIとスタディノートの基本から親切に、配慮された研修を行います。また、空き時間には、インターネットとの接続、校内サーバーなど、新システム導入に関わる最新情報の情報交換も行う予定です。

欧米ではコンピュータ・コーディネータとかテクノロジ・コーディネータなどの名称で呼ばれているこのようなリーダーが、日本でも、これから益々求められていくでしょう。今年度の研修会は、日本版のコーディネータの養成研修会とも言えます。ぜひ、多数の方のご参加をお願いします。また、参加できない方は、出席された方から大いに情報やノウハウを引き出して下さい。

また、校長先生、教頭先生を対象とした公開講座が信州大学で開催されます。リーダーのリーダーの研修会です。

マルチメディア教材の開発は信州大学の公開講座へ、スタディノートの研修は筑波女子大の公開講座へ。皆様のニーズにあった研修会をお選びください。

Information

講演会・研究会のお知らせ 主催：日本科学教育学会

日時：1998年6月13日(土) 10:00～17:00 / 会場：長野市若里市民文化ホール(ビックハット)

記念講演会：角田重樹(文部省初等教育課教科調査官)「これからの理科教育」

研究発表：「メディアを活かせる教員の研修と養成 - メディア・コーディネータ - 」他

その他講演もあります。学会員以外の参加も可。

申込・問い合わせ

信州大学教育学部
付属教育実践指導研究センター
東原義訓先生
/fax 026-237-9296
E-Mail higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp

スタディ研修会日程訂正

ECO News No.54でお知らせしたスタディ研修会の日程に誤りがありました。申しわけありません。正しくは右記の通りです。

・東京家政学院筑波女子大学公開講座

「スタディノートを中心としたネットワーク利用の授業展開」

日時 1998年8月24日(月)～25日(火)

・コンピュータ教育利用夏季研修会(会場：シャープ天理研究所)

日時 1998年8月6日(木)～8日(土)

インストラクター研修会
&
中央研修会

スタディ夏の研修会



詳細が決定いたしました。
参加申込受付開始！

スタディ

インストラクター研修会のお知らせ

今年も研修会の季節『夏』が近づいてまいりました。この夏、教育におけるコンピュータ利用に関する地域研修会を企画されていらっしゃる方々を対象とした『スタディインストラクター研修会』開催のお知らせをいたします。

各研修会がより効果的なものとなるよう、専門のスタッフが参加者に個別に対応させていただきます。会場は、SSPのご協力をいただき、昨年同様、東京都新宿区のシャープ(株)OAプラザです。JR市ヶ谷駅のすぐ前という交通の便の良いところです。研修会を企画していらっしゃる方、指導にあられる方、ふるってご参加下さい。

記

- 1 名称：スタディインストラクター研修会
- 2 主催：21世紀教育研究所 ECO News
- 3 協賛：シャープシステムプロダクト株式会社
- 4 日時：平成10年6月27日(土) 13:00
~ 28日(日) 15:00
(27日の研修は、18:00まで)
- 5 会場：東京都新宿区市谷八番町8
シャープ(株)2階OAプラザ
JR中央線 市ヶ谷駅徒歩3分
- 6 講師：21世紀教育研究所 中山和彦
信州大学教育学部 東原義訓
筑波女子大学 余田義彦
他インストラクター
- 7 内容：今年度の地域研修会の重点をどこにおくか
コンピュータシステムの新規導入、入れ替えのポイント
優れた事例の紹介
スタディシリーズ最新情報
- 8 参加費：無料(宿舎は、こちらで手配します)
- 9 申込：別紙「スタディインストラクター研修会参加申込書」により、下記まで至急、FAXでお申し込み下さい。

スタディ

中央研修会開催のお知らせ

今年の中央研修会は、「スタディシリーズを上手に導入・活用するための校内研修会の計画と実施」をメインテーマに開催いたします。

これからスタディシリーズを導入するので、実際の活用方法や研修のやり方を知りたいという方、スタディシリーズは入っているけれど、どうもあまり上手に活用できていない、先生方への研修をどうすればよいのかわからないという担当者の方など、あなたの悩みをこの夏解決しましょう。

記

- 1 名称：スタディ中央研修会
- 2 主催：21世紀教育研究所 ECO News
- 3 協賛：シャープシステムプロダクト株式会社
- 4 日時：平成10年8月3日(月) 8:30
~ 4日(火) 16:00
- 5 会場および宿泊：シャープ株式会社 栃木研修所
〒329-2141 栃木県矢板市早川町174
0287-43-1131
- 6 講師：筑波大学名誉教授
21世紀教育研究所 所長 中山和彦
信州大学教育学部 助教授 東原義訓
東京家政学院筑波女子大学
助教授 余田義彦
他インストラクター
- 7 対象：スタディシリーズ導入校および導入予定校で研修会の企画・指導担当者、または、今後担当するかも知れない方、興味のある方
- 8 内容：「校内研修会の企画・運営がスムーズにできるようになるには」
・スタディシリーズの上手な使い方及び体験
・CAI導入校のための校内研修のやり方と事例
・スタディノート導入校のための校内研修
- 9 定員：約40名
- 10 参加費：25,000円
(宿泊費、食費、テキスト代などを含む。
前泊・後泊の場合も同一料金)
- 11 申込：別紙「スタディ中央研修会参加申込書」にてFAXまたは郵送で、ECO Newsまでお申し込み下さい。

イーサネットで接続可能なコンピュータをできるだけご持参下さい。
近くの方にも宿泊していただき、合宿形式で行います。できるだけ、前泊して下さい。2日夜20:00より研修所のオリエンテーション及び情報交換を行います。

申込み締切り 6月30日(火曜日)

お問い合わせ・お申し込み

〒305-0005 つくば市天久保4-3-10 21世紀教育研究所 ECO News
0298-50-3321 FAX 0298-50-3330

スタディ研修会のポイント

- 豊田市での実践を通して -

豊田市若園小学校 近藤 憲司

去る平成9年3月に筑波大学で開催された「CAI実践20周年記念教育コンピュータ利用全国研究大会」で、豊田市立野見小学校(当時)の近藤先生が実践発表「研修会」で口頭発表された内容は、参加者に少なからずショックを与えました。その模様を再現できるとはとても思えませんが、研修会の企画・運営を担当される方にご参考になればと、当日のVTRをECO Newsで文章にし、近藤先生に加筆訂正していただきました。

なお、近藤先生、和歌山県印南中学校の久保豪史先生の「地域研修会のヒント集」は「教育コンピュータ利用全国研究大会論文集」に載っています。研修会の企画・運営担当者はぜひ、一度お読み下さい。上記論文集の入手方法は、最終ページをご覧ください。

12年間スタディをやってきました、研修会について今、豊田市ではどこまで出来てきているのか、また、何が問題点なのかをお話し、さらに出来れば、みなさんと、今出てきている課題を解決できたらなあなどと考えております。

研修会には階層がある

研修会を考える時、まず、第一のポイントは、研修会には階層があるということです。第一の階層は、点のレベル、第二の階層は、4パーセントのレベル、第三の階層は、30パーセントのレベル、そして第四の階層は、100パーセントのレベルとでも名前を付けます。

第一の階層、点のレベルというのは、全国規模の研修会などに参加して、まあ、1000人に一人ぐらいの教師が、「絶対にこの考え方を広めなければならないなあ」と感じるというようなレベルです。

第二の階層、4パーセントのレベルというのは、ある学校で一人ぐらいがどこかの研修会へ行って、「これはすごいものだ、どんどんやっていかなければならないぞ」と思うレベルです。

第三の階層、30パーセントのレベルというのは、一つの学校で、先生方の30パーセントが実際にスタディを授業に使っていらっしゃるというレベルです。

最後に、第四の階層、100パーセントのレベルは、先生方全員がスタディを使って授業ができるというレベルです。

研修会は、これらの階層のうちどのあたりをターゲットにしているのかということを押さえていないと、うまくいかないのではないかと考えています。昔のECO Newsの中央研修会とか天理の研修会というのは、ターゲットが、ほとんど点のレベルか4パーセントのレベルではないかと思えます。

それでは、今、他の地域に比べてスタディの実践が早く始まった豊田市の研修会が、どのレベルへ来ているかをお話しします。平成5年度までにすべての学校にスタディが入りました。そこで昨年、全員の先生方にマークカード方式でレベルチェックをしたのですけれども、「自分でコンピュータ室へ行って、コンピュータの授業ができるよ」という方が、ほぼ、100パーセント

に達しました。授業ができて、全員が完全に活用できるとまでは言えませんから、今、豊田市は30パーセントのレベルから100パーセントのレベルへ進もうかなというところへ来ていると言ってよいと思います。

こうした段階で、今までどおりの「参加者全員が原則として同じ研修をする」といった研修会をやると、参加者には非常にフラストレーションがたまってしまいます。というのは、「CAIの研修会と言うので来たけれど、もう私が知っていることばかりだった、知らないことをやってくれればいいのに」という参加者がいる反面、豊田市が今30パーセントのレベルと言っても、低い方のレベルの先生方は、まだ研修内容がよく分らない、困ったということになります。

平成9年度からは、参加者のニーズに合わせたポイントを絞った研修会にしなければならないということになりました。そこで、もう全員同じ内容の研修はやめて、たとえば「CAIの学習履歴をどう活用するかだけを研修する」というような細かい研修内容の予定表をあらかじめ配って、その中から参加する先生方を選んでいただいて研修会をやるということにしています。各地域で行われているECO Newsの研修会でも、全国、地域、学校といった区分だけでなく、その中でどの階層をターゲットに研修会をやるかということをしっか押しさえていないと、参加する先生方に十分に満足していただけないのではないかなと、私は感じています。

発見する研修会・ワークショップの勧め

第2番目のポイントは、受講者が発見する研修会でなければならないということです。以前は、私も中山先生から教わったことを伝えなければという思いから、よくしゃべりました。だけど、講師が一所懸命しゃべるだけでは、だめだと思います。自分で見つけ出す研修会にしなければいけない。そのためには、基本的にはワークショップ形式の研修会にするのがよい、しなければならないと考えています。

ワークショップ形式の研修会にすると、どのぐらいのスピードで研修成果が上がるかという例を挙げます。現在、豊田市では、データ処理ができないと、もう先生が

やれないというぐらいに、教員全員がデータベースを使いこなせるようになっていきます。データベースの研修会の場合、ワークショップ形式を採る以前は、1日8時間で3日間程度かけて研修しなければならなかったのですが、ワークショップ形式にしますと、データベースからデータリンクして、成績処理から住所録管理、DMの発行までを3時間から4時間の研修で、全く始めての先生が出来るようになります。

ワークショップ形式の研修会で講師(インストラクター)がやることは、まず、最初に参加者のレベルチェックをして、グループ分けをすること、次にレベルに合わせた課題を与えることだけです。研修は、同じレベルごとのグループでやっていて、分らなかつたら講師(インストラクター)を呼ぶ。呼ばれた講師は、そのグループのところへ行って、「こうじゃないのかな」というようなアドバイスをするだけで、あとは、それぞれ、勝手にやって、勝手に終わる。そして、最後は必ず感想を書いて発表してもらっています。

ワークショップ形式にしたら、参加者は、普通の研修会の5・6倍の効率を上げて帰っていきます。しかも、「自分で学んだ」、「やった」という成就感を持って帰って行くので、学校に帰ったら、必ず、研修で学んだことを実践していただけるんじゃないかなあと、そんなことを感じています。

コンピュータの研修会が、絶対に他の研修会と根本的に異なる点があります。それは、先生方も感じていらっしゃると思うのですが、研修を終えて学校へ帰られた先生に授業で使っていただければ、研修の意味がないという点です。他の研修会、たとえば、理科の研修会へ行きますとも、講師の話を聞きながら眠っていても、学校へ帰って校長先生に復命書を書いて終わり。それで全然困らないわけです。でも、コンピュータ研修だけは、すべての先生が学校に帰って子供たちにその授業を実践していただかなければ、研修会は、全然だめだったと言うことになってしまいます。豊田市では、平成9年度からは、ほとんどの研修会をワークショップ形式に切り替えていこうではないかという基本方針ができています。

講師・インストラクターをどう育てるか

現在、豊田市では、研修会に関して、大変困っていることがあります。豊田市には、小中学校合わせて約1800人の先生方がみえます。1年間に、そのうちの600人程度が研修会に参加されます。研修会も最初のころの第一階層や第二階層の先生方を対象としていた時は、各学校の主任を育てればよかったのですが、参加者600人、すべての先生が対象ということになると、講師の数、インストラクターの数を大幅に増やさなければならぬこととなります。一番難しいのが、このインストラクターをどうやって育てていくのかということです。現任校に14年いて、いろいろな先生方に講

師やインストラクターのやり方を教えたのですが、「研修会ではこうやるんですよ」といってもだめです。どうも、講師・インストラクターというのは、師匠と弟子の関係でしか育てられないという気がします。もちろん、よい研修会にできるだけ参加させて、勉強してもらおうということは大切です。

講師の条件として、メラニアの法則というのがあります。一番大事なのは、声と顔の表情です。講師が受講生といつも面と向かい合っていて、その表情がはっきりと分る状態でないといけません。

講師には、ランク分けがあります。「初級」、「中級」、「上級」、それに「達人」の4つです。「初級」は筋が通っていてわかりやすい話をする人。「中級」は聞いている人に安心感を与える人。「上級」は、相手が聞きたがっていることをズバリ指摘できる感覚と情報を持つ人。そして、「達人」は、自分の言いたいことを言いながらも、相手の要求に答え、かつ、相手を感じ動・感銘させることができる人です。まあ、達人というのは、中山先生、東原先生、余田先生を指します。私の学校へ視察へ見える行政の方は、こういうことには関係なく、コンピュータの研修会なのだから、コンピュータを使える技能を持っていれば、講師が務まると思ってみえる方がほとんどです。しかし、こういう人にはパソコンマニアが多く、そのパソコンマニアというのが、簡単なことを難しく説明しますので、講師としては役に立ちません。授業が上手な人というのは、この辺のことをよく分っている先生なので、授業の上手な方を講師・インストラクターに育てていけばよいのではないかと思います。

そして、最終的には、相手を感じ動させることができる達人を増やす必要があります。私は、スタディというのは、単にコンピュータを学習に使うというのではなくて、教育哲学ではないのかなと思っています。だから、講師の話に感銘し、「これでなくては！」と思う教師を増やさなければなりません。研修会の最後には達人が出てこない研修会は締まらないのです。感銘が受講者に伝わって、その人が感銘して、その受けた感動を子供たちの前に出す。スタディの研修は単なる技術の習得ではなくて、「どうしてもコンピュータを使った教育が必要なんだ」ということを伝えられる人、この達人のレベルまで、インストラクターの先生方を育てなければならぬのではないかと思います。

テキストが大事

短時間で研修を成功させるには、テキストが大事です。私は、現在、あまり研修会で講師をする立場にありません。何をしているのかというと、マニュアル、テキストを作る仕事をしています。研修会の講師は、その場限りといったところがないではありませんが、テキストは形が残っていきまますので大変です。E C O Newsでも紹介していただきましたが、豊田市では、「豊田市教育用コンピュータ活用の手引き」というもの

を作りました。これには、膨大な労力をかけました。これを読めば、最低限、どの先生もC A I、ロゴ、ワープロ、お絵かきの授業がやれるという冊子です。また、テキストというのは、2・3年ごとに改定、改定を繰り返

して現場に合わせてより良いものにしていく必要があります。それぞれの研修会にも、その内容に合ったテキストが必要で、学校に帰ってもそれを利用して研修した内容を再現できるものがよいと考えています。

スタディノートを使った授業実践

「わたしたちの兵庫県～玉ねぎづくりのさかんな三原町～」

兵庫県柏原町立崇広小学校 堀 博文

堀先生の実践は、社会科に関するものですが、調べの方法やまとめる方法の子供達に工夫させるなど情報教育を強く意識したものになっている点に特徴があります。「教育課程の基準の改善の基本方向について(中間まとめ)」「教育課程審議会」の中で「情報化への対応 各学校段階を一貫した系統的な情報教育を行うよう、各教科等の学習においてコンピュータ等の積極的な活用を図る。…」と述べられているように、新課程では情報教育が大きくとりあげられます。堀先生の実践は、これから情報教育に取り組もうとする学校にとって参考になると思います。また、堀先生の実践は、【調べる】【まとめる】【発表する】の各ステップで、計画とふりかえりの時間を設けている点にも特徴があります。この背景には、次の考えがあります。「これまでの授業実践では、子供の学習活動

についてPlan-Do-See(実行-計画-評価)サイクルのうちでDoだけに目が向けられ、PlanやSeeが忘れられがちであった。自ら学び自ら考える力を育成するには、PlanやSeeに関わる活動も大切にしなければならない。」この考えは、昨年3月に筑波大学で行われた『C A I 20周年記念 教育コンピュータ利用全国研究大会』で、氷上郡情報教育研究会のグループによって示されたものですが、堀先生はそれをスタディノートを使ってさらに押し進めようとしているわけです。このPlanやSeeに関わる活動は、前号(ECO News No.54)の「スタディノートの上手な使い方ヒント集(1)」で学習方略として紹介した「理解監視」の活動でもあり、これから重視していかなければならないものです。

(東京家政学院筑波女子大学 余田義彦)

- 1 校種：小学校
- 2 学年：第4学年
- 3 教科：社会科
- 4 単元名：「わたしたちの兵庫県～玉ねぎづくりのさかんな三原町～」
- 5 使用教科書：東京書籍
- 6 授業者：兵庫県柏原町立崇広小学校 教諭 堀博文
- 7 達成目標：三原町がなぜ玉ねぎづくりがさかんなのか理由を説明できる。
発展目標：三原町の人々はさらに玉ねぎづくりを進めるためにどんな努力をしているかを考えることができる。



(授業者：堀 博文先生)

8 学習活動の概要

【調べる】情報収集の段階では、資料をもとに考えたり電話で直接聞いたりした。特に、電話はこれまでに使ったことのない情報収集方法だったため興味も高く、電話で聞いたことをそのまままとめる児童もいた。情報をまとめる段階では、これまで使っていた模造紙・TPシート・発表メモに加え初めてコンピュータを用いて情報を選択し処理した。情報を伝える場面では、それぞれまとめた道具で資料を提示し、調べたことを発表し合った。【まとめる】スタディノートは、調べてきたことをまとめ、発表する道具として活用した。サーバより自分の課題に必要な画像データを選び、ノートに貼り付け、資料のことばや自分のことばを書き込んだ。中には、2つの写真を並べ比較しながらまとめたり文字や背景の色を分かりやすいものに変えたりする児童もいた。文字情報だけでなく、写真やグラフを画面にレイアウトすることにより、自分の伝えたいことをはっきり表現していた。

【発表する】発表では、スタディノートの掲示板を利用し、それぞれが発表者のノートを読み込んだ。発表後の話し合いの時に掲示板にある友達の情報(ノート)を活用し、課題を解決していこうとするところまでには、至っていない。



9 ねらい - 学習活動と目標の関係 -

1. 課題について調べ、その結果を発表する。 達成目標
2. さらに玉ねぎづくりを発展させるためにしていることを考える。 発展目標
3. 発表後の自己評価をする。 『理解監視』の活動
4. 次時の課題を知る。 『理解監視』の活動

10 事前の準備

- 発表メモ
- 発表計画表
- 発表振り返り表

11 遅れがちな子への手だて

自己評価カードによる助言, 評価, 支援



【計画表・ふりかえり表について】

児童は、「調べる」、「まとめる」、「発表する」の各ステップで、計画をたてるときには、「計画表」に記入し、次のステップに進む前には「ふりかえり表」で結果を自己チェックをしました。堀先生からお送りいただいた資料から ECO Newsで、各計画表とふりかえり表の項目をあげてみました。

調べ計画表の項目：

- ・あなたの課題
- ・課題をどのようにして見つけましたか。
- ・どのように課題を解決していきますか。
- ・わからなかった時、どうしていきますか。
- ・先生から

調べ振り返り表の項目：

- ・答が見つかりましたか。
- ・答は自分の予想とあっていましたか。
- ・どの調べ方が役に立ちましたか。
- ・先生から

まとめ計画表の項目：

- ・あなたの課題
- ・みんなに伝えたいことは何ですか。
- ・何を使ってまとめますか。
- ・どんな注意や工夫をしましてまとめますか。
- ・先生から

まとめふりかえり表の項目：

- ・伝えたいことが、2以上まとめられましたか？
- ・まとめの道具はよかったですか？
- ・まとめ計画の通りにまとめられましたか。
- ・先生から

発表計画表の項目：

- ・あなたの課題
- ・つたえることは、いくつですか？
- ・つたえることの内容
- ・わかってもらえるための工夫
- ・先生から

発表ふりかえり表の項目：

- ・伝えようと思ったことは、ちゃんと言えましたか？
- ・自分の発表はみんなにわかってもらえたと思いますか？
- ・発表に使ったものは、みんなに伝えるのに役に立ちましたか？
- ・できたと思うことに つけましょう。
- ・先生から

<調べ計画表から>

2. どのようにして課題を解決していきますか

	調べ方 (聞きたいこと、調べたいことを書きましょう。)
電話・ファックス	
インターネット	
家の人	
教科書	
副読本	
資料	
図かん	
事典	
その他	

3. わからなくてこまった時、どうしていきますか。

<まとめふりかえり表から>

3. まとめ計画表の通りにまとめられましたか

はい いいえ

できたと思う工夫に つけましょう

- () だいじなところだけ抜き出す
- () だいじなことは、大きな字で色を変えて、
分かりやすくまとめる
- () 自分のことばでまとめる
- () その他

<発表ふりかえり表から>

1 伝えようと思っていたことは、ちゃんと言えましたか

はい いいえ

「いいえ」と答えた人は、どうしてかな。

2 自分の発表はみんなにわかってもらえたと思いますか

はい いいえ

どうして、そう思いますか

OCNスクールパッケージ補遺

エコボランティアネットみえ
粉川一郎

先にお伝えしたOCNエコノミーを使った学校向けインターネット接続サービス「OCNスクールパッケージ」が正式に発売となった。概要については、ECO News53号でお知らせしたとおりだが、発売にあたって明らかになった詳細についてご紹介したいと思う。

・サーバの搭載基本ソフト(OS)はUNIXに

サーバについては、OCNスクールパック専用の「IPS-Pro for OCNスクールパック」が採用された。「IPSシリーズ」はソニーコミュニケーションネットワーク(株)が発売している小規模事業所用のサーバシリーズで、今回のモデルには学校向けにいくつかの点で改良がなされている。このサーバは一体型(オールインワン)サーバで、サーバに必要なさまざまな機能(WWW、メール、PROXYの各機能)が一台のサーバに含まれている。性能という点で見ると、Pentium 200MHz、64MBのメモリ、4.2GBのハードディスクと、最新のパソコンに比べると平凡な内容であるが、今回のスクールパッケージの用途から考えると十分な性能であるといえる。

基本ソフト(OS)にはUNIXが採用されている。一般のパソコンユーザーにはなじみの薄いUNIX-OSであるが、このサーバでは、実際の運用時の操作はホームページ閲覧ソフト(Netscapeなどのブラウザソフト)上でほぼ全て行うことができるため、実際には、OSがUNIXであることは大きな問題とはならないだろう。なお、必要な設定はすべて行った状態で出荷されるため、学校に設置されたその日から実際の運用を開始することができる。

サーバには無停電電源装置(UPS)が接続されており、万一の停電の際にもサーバの中に保存されているさまざまな情報が失われないような配慮もなされている。

・学校でも利用しやすい豊富なサーバの機能

最近ではホームページを開いている学校も増えているが、このOCNスクールパックでも、すぐにホームページが開設できる。しかも、学校外からの閲覧用と学校内での閲覧用のホームページを分けることができるので、学校外用ホームページには学校紹介を載せ、学校内用ホームページでは職員や生徒へのお知らせを載せるといった、より高度なホームページの利用も可能になってくる。また、メールソフトも充実している。先生が電子メールのやりとりができるのはもちろん、生徒すべてが電子メールアドレスを持つことも可能である。しかも、年度末に卒業した生徒のメールアドレス

を一斉に削除したり、入学した生徒のメールアドレスを一斉に作成したり、といった学校特有の運用にも配慮された設計になっている。

学校特有という点では、サーバに接続したパソコンに対して、特定のホームページの閲覧を制限する機能も付加されている。もちろん、第三者が外部からサーバ内の情報を改変したり出来ないような仕組みも備えられている。

・充実したサポート体制

以前、スクールパッケージを紹介した際、危惧していたサポートについてであるが、正式な体制が発表された。まず、初期設定はNTT側が行ってくれるのは前述したとおりである。このため、導入に当たっては必要最小限の労力で済む。また、電話によるヘルプデスクが設置される。何らかの問題が発生しても、月曜から金曜までの9時30分から17時までは、実際に電話で話しながらサポートを受けることが可能である。故障時には技術員の派遣、もしくは遠隔地保守(リモートメンテナンス)を受けることができる。今回のサーバにはリモートメンテナンス用の装置が組み入れられているため、ちょっとした設定の不具合であれば、NTTの技術者が電話線を通じて、直接サーバの設定を直してくれる。これから授業で使おうとしているところで急に問題が発生したときなどは、このリモートメンテナンスは大変有効である。もちろん、機械的な故障が発生した場合には、予備機との取り替えやサーバ内の情報の移動などもすべて行ってくれる。当初電子メールのみと言われていたサポートが、電話によるサポートやリモートメンテナンスまで行われることになり、ずいぶん安心して利用できるようになった。今後はサポートの開設時間の延長を望みたいが、現状でも、ひとまず、満足のいくものと言えよう。

・少し高目の料金

このOCNスクールパックはリースという形で提供される。今回ご紹介したものの費用は、器材のリース料金、OCNの回線料金、サポート料金を合わせて、月々63,300円(消費税別)となっている。当初予想されていた6万円より少し高目の設定となった。実際には豊富なサポートやサーバの機能を考えれば、現状では充分納得のいく料金である。しかし、額としてみれば決して少ない額ではない。この投資に見合った成果を期待できるかどうかをきちんと考えておきたい。

・まとめ

「システムの構築維持に関して、先生に負担をかけること」を主目的にしていると謳っているだけに、設定の面、サポートの面には十分配慮しているようだ。また、OCNエコノミー(速度128Kbps)を使ったホー

ホームページの提供(WWWサーバの構築)についても、21世紀教育研究所を含めた複数の例を見る限りでは、予想した以上の速度が出ており不安は少ない。学校独自のインターネット上の住所(独自ドメイン)が容易に持てることも他にはない魅力といえる。現時点では、学校にインターネット環境を導入する際の有力な選択肢の一つであると言える。

しかし、OCNスクールパックを導入したからといって、それだけで学校の情報化が進むわけではない。こうした有効な道具を、どうやって授業や課外活動、保護者とのコミュニケーションの中で活かしていくか、この点がもっとも大切であることを忘れないようにしたい。

お便り 学校のホームページで
つながる人、そして地域

つくば市立並木小学校 毛利 靖

4年生で身近な植物について調べたことをスタディノートでまとめ、ホームページに公開しました。すると神戸の見知らぬ方から電子メールが届きました。その内容は「私は、並木小の4年生の祖父です。孫が電話で『おじいちゃん、私が作ったホームページを見てね』と話しておりましたので拝見させていただきました。まだ、4年生なのに素晴らしい内容にびっくりさせられると同時に、ずいぶん孫も成長したなと感激しました。」という内容でした。

また、PTAからは「お下がり交換会」などのお知らせを載せてほしいという要望があり、追加しました。並木小学校では、ホームページをただ単に児童の情報発信や表現力をつけるためにおこなっているのではなく、保護者や地域社会との連携や他の小学校との学習や生活の交流ができれば良いと考えています。

つくば市立並木小学校のホームページ
<http://www.accs.or.jp/namikis/>

ECO News からのお願い

§ ECO News登録コースウェアCDの配付を希望される方が、郵便振替口座を間違えて振り込まれることが有ります。正しい口座は次のとおりですので、よろしくお願いたします。

加入者名：ECO News 口座番号：00160-9-727214

§ 《残部あります》

『教育コンピュータ利用全国研究大会論文集』¥1,050
(送料¥240)

『7+4 スタディ研修会テキスト』¥1,050 (送料¥310)
お申し込みは、下記へ郵便振替でご送金下さい。その際、ご希望の品名をお書き添下さい。

加入者名：CAI 実践20周年 口座番号：00110-0-730289

ご質問にお答えします

現在、ECO Newsから配付しているコースウェアを、windows版スタディタイムでうまく動作しなかったけれど、というご質問が寄せられました。

質問1 記号や特殊な文字が、マニュアル通りにやっても入力できなかった

「31 わり算」のあまりのキーや「81 長さしらべ」のkmやmが、マニュアル通り「英数大文字」モードで入力してみたのですが、どうしてもうまくいきませんでした。

答え

どちらについても、スタディタイムでは、普通のキーボードから直接入力できない特殊な記号や文字を「拡張キー」という機能を使って、入力できるようにしています。「拡張キー」は、キーボードの一番上のキー(「1!ぬキー ~ ¥|」キー)に、コースごとに割り当てられています。

スタディタイムで、拡張キーに割り当てられている記号や文字を入力する時は、キーボードを英数大文字モードで直接入力して下さい。日本語フロントエンドを立ち上げた状態では、拡張キーは働きません。

質問2 漢字で答えられないのですか

「15 東京ディズニーランドへの旅」で、「富山」や「千葉」が正解のところ、富山、千葉と入力しても回答欄に表示されず、正解を答えることが出来ません。

答え

ECO Newsから配付しているNo.99までのコースについては、漢字に変換せずにひらがな、または、かたかなで回答して下さい。

No.99までのコースウェアは、漢字入力できないDOS版スタディタイムでも動くようになっていたため、漢字を受け付けていません。ひらがな、かたかなの入力は、直接入力でもフロントエンドを立ち上げてでも、どちらでもできます。「東京ディズニーランドへの旅」の場合は、「とやま」、「ちば」と答えて下さい。

'98 France
Viva Japan!! 

ECO News
21世紀教育研究所

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-3-10
0298-50-3321 fax0298-50-3330
e-mail econews@green.ocn.ne.jp
URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp/>